

授業科目名 <英訳>	超高齢社会の生活論 Living in Aging Society		担当者所属 職名・氏名	こころの未来研究センター 教授 Becker, Carl Bradley こころの未来研究センター 教授 吉川 左紀子 こころの未来研究センター 特定助教 清家 理			
群	キャリア形成科目群	分野(分類)	C O C O L O 域		使用言語	日本語	
旧群		単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義
開講年度・ 開講期	2016・前期	曜時限	火4	配当学年	全回生	対象学生	全学向
[授業の概要・目的]							
超高齢社会を迎え、増加の一途を辿る高齢者に対し、支援される対象から社会に貢献する対象への転換が求められている。しかし実際は、地域での居場所がない、他者とのコミュニケーション機会が少ない高齢者が多く、閉じこもりに伴う鬱病や認知症、虚弱に陥るハイリスク群である。これらの予防策を考えていく、包括的な視点の習得を本講義の目的とする。							
[到達目標]							
老年期のからだ、こころ、生活の変化とそれに伴う課題を包括的に学習し、超高齢社会における課題の明確化、課題解決にむけた企画立案に必要な視点を習得する。							
[授業計画と内容]							
14回ともに、講義や演習のイントロダクションと総括は、ベッカー・吉川・清家が行う。一部、老年内科学、社会的課題の解決にむけた具体的活動については、外部専門家をゲスト講師として招聘する。							
第1講【イントロダクション】「超高齢社会とは」							
第2講【老年期における身体疾患と生活障害】（老年内科学） ・「身体的」に老いるということ ・老年期疾患と生活障害							
第3講【老年期におけるこころの状態と生活障害1】（老年心理学） 心理的に老いるということ							
第4講【老年期におけるこころの状態と生活障害2】（老年心理学） 老年期のこころの変化							
第5講【老年期における社会生活の変化と生活障害1】（老年福祉学） 老年期に関係する社会福祉制度							
第6講【老年期における社会生活の変化と生活障害2】（老年福祉学） 老年期の人を支えることの意味と意義							
第7講【老年期に直面する課題への備え1】（医療倫理学） Advance care planningの必要性と課題							
第8講【老年期に直面する課題への備え2】（医療倫理学） 安らかな人生を全うするために必要なケアと課題							
第9講【老年期に直面する課題への備え3】（医療倫理学）							
----- 超高齢社会の生活論(2)へ続く -----							

超高齢社会の生活論(2)

遺された人に対するケアと課題

第10講【老年期に直面する課題への備え4】（医療倫理学）
ケアする人をケアする意義と課題

第11講【老年期にまつわる社会的課題の解決にむけた具体的な活動1】
行政のとりくみ（ゲスト：京都市保健福祉局保健福祉部）

第12講【老年期にまつわる社会的課題の解決にむけた具体的な活動】
医療者のとりくみ（ゲスト：京都市内の訪問診療実施医療機関）

第13講【課題解決の明確化と解決にむけた企画立案1】
演習発表とディスカッション

第14講【課題解決の明確化と解決にむけた企画立案2】
演習発表とディスカッション

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

平常点（出席状況＋演習参加）＋演習ふりかえりシート＋プレゼンテーション試験

配点の割合は、講義において示す。

【教科書】

プリント配布。

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

（関連URL）

<http://kokoro.kyoto-u.ac.jp/jp/event2/2014/09/manabian2014.php>（興味関心がある学生の見学参加を歓迎する）

【授業外学習（予習・復習）等】

演習終了毎に、演習ふりかえりシートを記載。講師よりフィードバックを行う。

【その他（オフィスアワー等）】

オフィスアワー：毎週金曜日（事前にメール等で要予約）

本講義は、地（知）の拠点整備事業（KYOTO 未来創造拠点整備事業 社会変革期を担う人材育成）京都学教育プログラム：COC事業における分類（まなびよし、いきよし）で提供する科目である。